

三戸町発わたしたちの働き方改革 ～平成30年度第1回女性リーダー研修会～

8月29日、三戸町の城山公園内にある「^{しょうようかく}祥鷹閣」で女性リーダー研修会を開催し、ViC・ウーマン、若手女性農業者など35人が参加しました。

午前は、貝守地区のドローンを利用した水稻防除など事例3件を学んだほか、三戸町のViC・ウーマンを講師に、ダンボールオーブンを利用したピザづくりで交流を深めました。午後は、「農業生産法人株式会社よしだや」の^{なかい}にんにくの生産から加工・販売までの取組や育児中の女性の雇用の取組のほか、Farm Akasakaにおいて中井のり子さんから牛舎監視用カメラを活用して母牛の出産兆候を把握する等黒毛和種の繁殖経営について、お話を伺いました。

農業者の高齢化や担い手不足といった課題はありますが、農業経営を持続・発展させるヒントをもらい、大変有意義な研修会とすることができました。



ドローン紹介



ピザ作りの様子



参加者全員で記念撮影

新規就農者の取組紹介 Part 1

初回は、新郷村で平成25年に親が経営する繁殖肉牛、葉たばこを継承し就農した^{たかながねひろき}高長根博樹さんを紹介し、経営開始から少しずつ親牛を増やし、現在は7頭の雌牛を飼養しています。平均分娩間隔は県平均が430日ですが、高長根さんは386日と短く、子牛の安定生産に努めているほか、受胎牛を公共牧場へ放牧するなど、労力軽減や飼料費節減を図っています。今後は、経営規模を維持しつつ、牛舎の改築により作業性の改善に取り組む予定です。

就農時期を早め、親が元気なうちに一緒に作業することで、細かいノウハウなどの円滑な技術継承ができています。



^{たかながねひろき}高長根 博樹 氏

三八地域でのGAP取組の拡大推進！

近年、消費者や実需者の信頼確保等を目的に、GAPへの取組が求められています。また、平成30年度からGAPが環境保全型農業直接支払交付金受給の要件になっているため、県や当該交付金取組市町村では生産者を対象とした研修会を随時開催しています。

当室では、国際水準のGAPについて研修を受けたGAP指導員を配置しておりますので、興味がある方はぜひ御相談ください。

みどりの通信

平成30年度第2号

〈三八地域県民局地域農林水産部〉

・農業普及振興室

〒039-1101 八戸市大字尻内町字鴨田7

TEL: 0178-27-5111 (代表)

TEL: 0178-27-4444 (直通)

FAX: 0178-27-3323

・農業普及振興室分室

〒039-0134 三戸町同心町字同心町平54-7

TEL: 0179-23-3264

FAX: 0179-23-3274

青森県農業青年交流大会が南部町で開催！！



第25回青森県農業青年交流大会が8月23日、24日の2日間、南部町名川チェリリン村を主会場に開催されました。大会の運営は、三戸地区及び八戸地区の4Hクラブ員で組織した大会実行委員会（実行委員長：^{こさわだ まこと}小澤田 誠）が担当し、県内各地区の農業青年や営農大学校生及び普及職員等総勢59名が参加しました。参加人数は例年より少なかったものの、夜遅くまで4Hクラブ活動や本県農業の将来について熱く語り合うなど、活発に意見や情報交換がなされました。

8/23 (1日目)

猛暑の中、5チームに分かれて技術問題や御当地問題を解くフィールドワークに取り組みました。ロープワークや肥料計算、パワーアシストスーツを着用しての重量当てクイズ等、趣向を凝らした問題もあり、参加者は懸命に問題を解いていました。

夜の交流会ではバーベキューを楽しみながら、「倉石牛」争奪の各種ゲームで盛り上がり、仲間との交流を深めることができました。

フィールドワーク
優勝チーム



8/24 (2日目)

ワインコース、日本酒コースに分かれて、「地元の農産物を使い、地元で醸造する」異業種連携による6次産業化の取組を視察しました。



すもも有望品種「サマーエンジェル」の現地検討会開催



JA八戸プラム・プルーン専門部と共催で、8月4日の夕方から三戸町梅内の園地で、「サマーエンジェル」の現地検討会を開催しました。

検討会では、「サマーエンジェル」の特徴を紹介するとともに、先進地である山梨県の取組状況などを説明し、実際に栽培している生産者の評価や質問を受けるなど、活発な意見交換が行われました。

「結実安定している」との意見がある一方で、「収穫の時期や目安が不明なので早急な対策を望む」といった意見もあり、今後、専門部と連携を強化しながら、これらの課題解決に向け支援を継続していく予定です。



←検討会の様子〔上〕と「サマーエンジェル」の結実状況〔下〕

ながいも緑肥研修会を開催

JA 八戸と共催で7月3日に五戸町倉石の森田格勝氏もりたただかつのほ場で、緑肥の根を見る研修会・緑肥鋤き込み実演会を開催し、ながいも若手研究会員8名をはじめ関係機関職員など約40名が参加しました。

展示ほは、ながいもの連作障害回避を目的に、JA八戸及び雪印種苗たちばなたしと連携して設置したもので、雪印種苗の立花正氏から「緑肥の特徴と根の伸長について」説明があった後、緑肥の根張り状況や土層の土壌硬度を確認しました。

当日は、研修会に続き、緑肥の浅耕起による鋤き込み実演が行われました。次年度は、このほ場に実際にながいもを作付けして、緑肥による連作障害回避の効果を検証することとしています。



緑肥の根の説明の様子〔上〕と鋤き込みの実演（浅耕起）の様子〔下〕↑



管内の農業・農村の動きや農業普及振興室の活動状況はこちらをご覧ください！
<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/sa-nosui/0915shukyu.html>

青森県農業労働力求人マッチングサイト 「あおもりの農作業の上手い人たち」募集中！！

第45回青森県花の共進会、三八地域から3名入賞！

7月20日（金）に、第45回青森県花の共進会が青森市で開催され、出品点数126点の中から、石上菜穂美氏いしがみなおみ（八戸市）の白輪ギク「精の一世」が最優秀賞（農林水産大臣賞賞）を受賞しました。また、中舘春美氏なかだてはるみ（南部町）、戸花進氏とほなすすむ（三戸町）のディスバッドマムがそれぞれ優秀賞、金賞を受賞しました。



石上氏
白輪ギク



中舘氏
ディスバッドマム



戸花氏
ディスバッドマム

管内で栽培が多い輪ギクは、近年業務需要の減少により販売面で厳しい時期もありますが、当室では夏場の輪ギクに求められる花持ちの良いキク生産に力を入れるとともに、消費者ニーズに合わせたトルコギキョウ等洋花類の生産を支援し、産地の維持拡大を図っていきます。

お知らせ

野生鳥獣による農作物等への被害を防止しましょう

当管内の野生鳥獣による農作物等被害は年々増加傾向にあり、近年では特にニホンジカやイノシシが多数目撃されています。

被害防止対策として、市町村が設置している鳥獣被害防止対策協議会では、猟銃や箱わな等による捕獲活動や被害防止パトロール等を行っていますが、野生鳥獣による被害を防止するには、エサとなる農産物残渣の片付けなど、ほ場に野生鳥獣を近づけず、侵入させないことも重要となります。

野生鳥獣は、ほ場周辺の雑草の刈払や緩衝帯の設置、フェンスや電気柵等の防護柵の設置により侵入を防ぐことができます。防護柵設置等の補助事業活用については市町村の農林担当課に御相談ください。

りんご黒星病の防除対策徹底を！

りんご黒星病が三八地域の広い範囲で発生しており、一部に被害の多い園地もみられます。被害葉や被害果は伝染源となるので、当面の対策として、葉摘み作業等の際に見つけたら摘み取って土中に埋めるなど処分を徹底しましょう。

また、黒星病菌を検査したところ、E B I 剤やストロビルリン剤の防除効果が低下している可能性の高い園地が確認されました。来年の薬剤防除に当たっては、県のりんご病害虫防除暦等を参考にして、防除効果のある薬剤を使用してください。

黒星病のりんごの葉（黒いすす状の病斑）→

